

UNIVERSITY OF TOYAMA

CIER NEWS

Center for International Education and Research

Vol.9

富山大学
国際交流センター
ニュース
2018

富山大学国際交流センター

〒930-8555 富山市五福3190

TEL/FAX 076-445-6106

<http://www.ier.u-toyama.ac.jp/>

おも
で
思い出



Welcome Party



だんわしつ
談話室



スタディ・エクサカーション とやましみんぞくみんげいむら
富山市民俗民芸村



スタディ・エクサカーション とやましみんぞくみんげいむら
富山市民俗民芸村

がくせい 学生からのメッセージ



初めての富山で

医学薬学教育部 薬科学専攻
博士前期課程 2年

SIRIPORN PHUTTHATHIRAPHAP

私がタイのマヒドン大学の薬学部で勉強をしていた頃、指導教授からアセアン事業の奨学金に関する情報をたくさん教えていただきました。

特に、私の大学の先生と先輩が、富山大学医学薬学教育部で学位を取得していたので、富山大学の薬物生理学には有名な先生がいらっしゃることも聞きました。また、富山は薬では、かなり有名で、製薬科学に長い歴史を持っていることも知りました。富山県は日本の製薬のハブと言われ、薬を国内外にも供給しています。このような理由から研究を行うには、最適な場所だと考え富山大学医学薬学教育部と日医工製薬会社を選びました。

富山大学は薬学の研究で、かなり先進的であり、調べてみると多岐に渡る多くの研究や書物の種類に驚かされました。私は、これらの書物を通して研究に対する洞察を深めながら有意義な学生生活を送ることができました。また、キャンパスは郊外に立地していますが、とても人は優しく過ごしやすい場所でした。その薬物生理学研究室の一研究員として作業を行えたことは、とても幸せで誇りに思います。これが私の初めての海外留学ですが、ここでの経験は他では味わえないものだと実感しています。私のタイの先輩は、富山大学の授業はとても刺激的で深く考えさせられるものだと断言しています。また、富山で沢山の友達も出来、その友達に刺激を受け、私も他の国でもっと勉強してみたいと思うようになりました。留学という経験は貴重なものとなり、将来のキャリアに役立てると思います。この先は、日本で薬学を身につけ、タイでの経験と比較をしてみたいと思います。最終的には、タイと日本の最善の実践をその教育と実務に盛り込みたいのです。そして将来は日本で修得した重要な知識・技能を生かして、優れた薬剤師になれるように頑張りたいと思います。富山に来た最初の頃は、少しさびしさも感じましたが、住んでみると馴染みやすく、私の研究室の教授も学生たちもとても親切で、問題があるとすぐに助けてくれます。そして、金銭面では富山県アセアン留学生受入事業の奨学金をいただいております。この奨学金のお蔭で、貴重な富山での時間を研究や勉強に有効に使うことができます。また、私は、基本的に日本の食べ物が大好きです。特に寿司がとても美味しいので、高価ではないものを食べるにいきます。現在は授業に出て、専門知識を増やすために日夜勉強に励んでいます。し

かしながら、ほとんどの講義は、日本語で行われているため、まだ日本語を十分に理解できない私にとっては、時折スライドに出てくる英語の専門用語以外は飲み込むのに時間がかかります。そんな時は、研究室の仲間がよく助けてくれ、関連する必要な資料などを紹介してくれます。近い将来、教授の教えてくれる内容を全て理解できるよう、これからも一生懸命に頑張ります。



留学後の生活

工学部 機械知能システム工学科 2年
竹内 勝哉

私は、1年生の春休みに大学のプログラムで1ヶ月間アメリカへ短期留学しました。ここでは、ともに語学学校で学ぶ学生、現地で日本語を学ぶ学生など100人もの人と出会い多くの刺激を受けました。そして、異文化理解をはじめとする国際交流の楽しさを体感しました。

帰国後、国際交流の楽しさを知った私は、国際交流センターへ通い、富山大学へ留学に来た学生と交流するようになりました。今は、日本に来て間もない留学生に学内や大学周辺を案内したり、会話をしながらその中で日本語を教えたりしています。「～じゃない？」など、ちょっとした語尾の変化が留学生、日本語学習者にとってはとても難しいことだと気づかされました。留学生に、より「日本人」になってもらうために、日本語の授業ではあまり教えてもらえないネイティブだからこそ使う言葉を教えることがとても楽しいです。

また、去年の夏休みには留学先で出会った友達に会うため一人で台湾へ旅行に行きました。一人であるため、留学の時とは異なり、周りに日本語が話せる人は一人もおらず助けてもらうことはできません。また、私は中国語がほとんど分かりません。そんな中、2日目の夜、ホステルで南京錠のカギをロッカーに入れたままロックしてしまうといったミスをしてしまいました。しかし、隣に宿泊していた台湾人の方に簡単な英語と身振り手振りで、必死に助けを求めたところ、ホステルのスタッフに事情を話していただき、さらに、日本語が話せる友人に電話をかけ対処方法を詳しく説明していただきました。そして彼のお蔭で、何とか解決することができました。このようなトラブルも起きましたが、友人や現地の方々のおかげで旅行を楽しむことができ、同時に、自分に自信が持てるようになった旅行となりました。

私は元々海外に興味を持っていましたが、留学に行くまでは学内にいる留学生に話しかけてみるといった小さな一歩が踏み出せずにいました。しかし短期ですが、思い切って留学することによって、自分を成長させるきっかけを手に入れることができました。もし、留学を含め海外に少しでも興味があ

ある方は是非一度、国際交流センターを訪れてみてください。あなたと話しをしたい留学生や頼りになる先生が待っています。



国際線ターミナルにいます

経済学研究科 企業経営専攻 2年
松田 靖子

お昼に食べたピザにはパイナップルがのっていました。ハワイ風だそうです。また新しい味を発見してしまいました。今、ロサンゼルス空港でホンジュラスへの乗り継ぎ便を待っています。これから、大学で知り合った友人に会いに行きます。

日本とは違うどこかに行くというだけで、期待と不安が入り混じります。外国では、友達に会う、勉強をする、観光をする、おいしいものを食べる…といったことしかしていませんが、やはり特別なイベントです。あと何回海外に出たとしても、この気持ちが落ち着く日は来ないのでしょうか。

大学生になってから、アメリカのボストンとロシアのモスクワに一月ずつ語学留学をし、中国の大連には半年、交換留学をしました。留学なんて夢の話だと思っていたので、よく実現したものだと不思議な気分です。

私は全ての留学計画を留学生センターで立てました。留学生センターとは今の国際交流センターの前身です。留学の決断、パスポートの申請、語学学校の選択、書類の作成、大学の連絡など、先生や先輩、留学生たちには何から何まで助けてもらいました。帰国後の報告も含めて、常にセンターが拠点でした。

初めてセンターを訪ねたのは、入学式の翌日です。どんな人たちがいるのだろうと覗いてみたら、ガーナとインドネシアの留学生がいました。今回会いに行くホンジュラスの友人もここで出会いました。まるで国際線のターミナルです。世界中から学生が集まってきて、聞き慣れない言葉が飛び交っています。学内にあるのに、日本であることがわからなくなるほどです。

センターに通っていると、いつの間にか留学の準備が整っていました。留学生たちの故郷の話や聞くと、まだ知らない世界にワクワクしてきます。海外に気持ちが向かったとき、先生たちはそっと背中を押してくれます。私はここで世界とつながり始めました。

今回の旅もまるで、センターというターミナルでチェックインまで済ませてきたみたいです。ホンジュラスの留学生に出会い、先生方から勧められ、ここまで来てしまいました。荷物だけは家で準備してきました。スーツケースのほとんど

を、すし酢、唐揚げ粉、カレー粉、そしてコチュジャン(朝鮮料理の調味料)が占めています。これらのお土産は喜んでもらえるでしょうか。さて、そろそろ搭乗の時間です。



富山での留学生生活

理学部 生物学科 4年
CHULASATIT SAKONH

私の日本への留学はタイ政府の奨学金を得ることで叶いました。そして、日本での生活は東京から始まりました。その頃は日本語が全くできなかったのですが、一年半ぐらいの期間で日本語を勉強し、大学に入らなければなりませんでした。幸い富山大学に合格し富山県での生活が始まることになりました。その時はうれしかったのですが、大学に入る前も大変なことが多かったため、これからはもっと大変なことがたくさんあるような不安を感じていました。

その不安は的中し、東京から富山県に引っ越しする時から困ったことが始まりました。例えば、アパートを探したり、契約したり、市役所で健康保険の手続きをしたり、買い物をする場所を探すことさえ大変でした。大学では、授業を登録することも困難なことで、誰も知り合いない私には、つらい毎日でした。そんな頃、大学の掲示板で国際交流センターを知り、行ってみようと思いました。初めは、センターがどんな所かもわからず、相談できるのかな?と心配したけれど、センターの人は私にアドバイスしてよく手伝ってくれました。

時々、センターの人だけではなく、周りの留学生や日本人学生も助けてくれました。皆さんは、本当に優しくかったです。

そのようにして、富山での留学生生活が始まりました。富山大学で過ごしたこの4年間は本当にたくさんの人と出会えたし、ためになるアドバイスもたくさんいただきました。

いつもセンターで皆さんと面白い話をしたり、笑ったり、一緒にイベントをしたりして、本当に楽しい思い出が一杯できました。今、振り返ってみると私の留学生生活は、ほとんど国際交流センターで過ごしたように思います。

卒業が近づき富山大学、そして国際交流センターで出会った皆さんとの別れを寂しく感じるが多くなりました。出会った皆さんに伝えたいことは、自分の将来とか自分の進むべき道は、迷い、思い悩むことが多いと思いますが、自分の責任で選んだ道を突き進んでほしいと思います。そのためには、沢山のひとと沢山話してください。そして、私は皆さんとまたいつの日か会えると強く信じています。その日まで、私のことを忘れないでください。私も皆さんのことをずっと…ずっと忘れません。本当にお世話になりました。

こくさいこうりゅう 国際交流センター 掲示版 (五福キャンパス)

富山大学国際交流センターは、外国人留学生の受入・支援、学生の海外留学の支援、海外学術交流協定校との学生交流に関する連絡・調整、外国人留学生に対する日本語・日本事情教育、その他の国際交流に関する諸業務、留学生教育・国際交流に関する調査及び研究などをその業務としています。詳しくはホームページをご覧ください。〈<http://www.ier.u-toyama.ac.jp/>〉 留学や国際交流等に関心のある富山大学の学生のみなさん、気軽に足を運んでください。

こくさいこうりゅう 国際交流サークル PARTNERS

4月と10月にはWelcome Partyを開催する予定です。各催しに関する案内は国際交流センター内に随時掲示します。みなさん、ふるってご参加ください。

※PARTNERSとは、富山大学に通う外国人留学生と日本人学生との交流と留学生のサポートを目的として立ち上げられた学生の課外活動団体です。

コンサルテーション

富山大学で学ぶ外国人留学生のみなさん、海外への留学を目指すみなさんを対象に、相談に応じています。

担当: バハウ サイモン ピーター 教員

実施日時: 火曜日 3限・木曜日 3限

相談予約・問い合わせは、下記事務室まで

◆ **申込・問合せ先**

☎ 076-445-6106

cier@adm.u-toyama.ac.jp

センターには「留学情報資料室」もあります。

2018年度前期日本語課外補講 オリエンテーション

〈日 時〉 2018年4月4日(水) 11:30~13:00

〈場 所〉 共通教育棟4階A43番教室

※日本語課外補講の受講希望者は、このオリエンテーションに参加してください。

◆ **連絡先** ☎076-445-6271 (小木曾研究室)

学部新入外国人留学生のための時間割作成 オリエンテーション

〈日 時〉 2018年4月6日(金) 17:30~

〈場 所〉 共通教育棟C11番教室

※先輩に手伝ってもらいながら、履修する授業の時間割を作ります。学部新入外国人留学生は、ぜひ出席してください。

◆ **連絡先** ☎076-445-6972 (副島研究室)

スタディ・エクサカーション

〈日 時〉 2018年5月18日(金) 12:45集合

〈見学場所〉 五百羅漢・富山市民俗民芸村

留学生と日本人学生との「交流」を目的とした見学です。詳細については、後日掲示にてお知らせします。



◆ **連絡先** ☎076-445-6106 (センター事務室)